

〈研究授業〉

第七十一回県研究授業を終えて

荇田工業高校 福元 隆寛

一はじめに

今年度、荇田工業高等学校で、第七十一回研究授業を実施しました。今回研究授業にあたり、「行書の創作と意図に基づいた表現」を単元として設定し、「学習評価につながる指導及びワークシートの工夫と、主体的に学習に取り組む態度の評価」をテーマに準備を進めてきました。以下に、内容を示し、報告とさせていただきます。

二 概要

- (一) 実施学校 福岡県立荇田工業高等学校
- (二) 日 時 令和五年十二月六日 水曜日 二・三時限
- (三) 対 象 機械科一年A組十五名
- (四) 科 目 書道Ⅰ
- (五) 単 元 名 漢字の書 「行書の創作と意図に基づいた表現」
- (六) 本単元までの流れ
 - 1 書道の基本（書道Ⅰの導入）
 - 2 漢字の書
 - ① 楷書の学習
〔九成宮醜泉銘、孔子廟堂碑、建中告身帖、始平公造像記〕
 - ② 篆刻の学習
 - ③ 行書の学習〔蘭亭序、争坐位文稿〕

三

研究授業（本時）の流れ

- (一) 前時の振り返り
 - ・ワークシートやパワーポイントで自身の表現の意図や書を構成する要素について確認し、前時の活動について振り返るとともに、前時に制作した作品例とその解説を共有することにより、自身とは異なる新たな見方・考え方（感じ方や捉え方、考え方）に気づく。
- (二) 構想・工夫の見直し②
 - ・用筆・運筆から生み出される書の表現性について、「変化」「律動」「性情」から理解する。
 - ・書を構成する要素を踏まえて、作品制作②で表した作品について表現 性（変化、律動、性情）から考え、必要な改善点をワークシートに記入する。
- (七) 本単元の学習内容
 - ・これまでの学習を生かしながら「風」字の行書創作の作品制作に取り组ませる。
 - 1 本単元の流れ
 - ① 表現の意図を考える
 - ② 書を構成する要素から考える
 - ③ 表現性から考える・・・・・・本時
「変化」「律動」「性情」で説明してみる。
 - ④ 表現効果を考える（表現の意図の再考）
意図に応じた表現ができているか

(三) 相互鑑賞・意見交換①

- ・表現の意図、構想・工夫、構想・工夫の見直し①②で記入した記述内容と作品制作①②で表した作品の画像をタブレットで共有した後、相互鑑賞・意見交換を行い、表現の意図に基づく構想の実現に向けた他者からのアドバイスをワークシート（ICT）に記入する。

(四) 構想・工夫の見直し③

- ・相互鑑賞・意見交換①を通して、他者の見方・考え方（感じ方や捉え方、考え方）に触れることで広げた自身の見方・考え方（感じ方や捉え方、考え方）を働かせながら、表現性の観点からこれまでの構想・工夫の過程や作品を再度見直し、自身の表現の意図に基づく構想の実現のために必要な改善点をワークシートに記入する。

(五) 中間自己評価

- ・相互鑑賞・意見交換①を通して他者の作品や構想・工夫の取組から感じたことを踏まえて、自身の構想・工夫の取組を振り返り、自身の表現の意図に基づく構想の実現に向けた今後の活動への見通しをワークシートに記入する。

(六) 作品制作③

- ・相互鑑賞・意見交換①や構想・工夫の見直し③の内容を踏まえ、「風」字について、自身の表現の意図に基づく構想の実現に向けて作品を表す。

(七) 本時のまとめ

- ・作品制作③で表した作品をタブレットで撮影し、デジタル教材に貼り付けた後、次回の意見交換の活動とその後の流れに

ついて確認する。

【(二)・(三)における生徒のICT成果物】

【相互鑑賞・意見交換①】
「書を構成する要素」及び、「表現性」の観点からアドバイスを具体的に記入しよう。

「書を構成する要素」・・・ピンクの付箋
「表現性」・・・青色の付箋

淡墨を使ってみたらよりさわやかな感じが出ると思う。

一画目の位置を左にして二画目の払いの部分を増やして、濁筆の部分を増やす。右上に余白をいっぱい作ると良いと思う。

太線の变化（特に濁筆）を増やして書いてから軽い感じが出てさわやかさにつながって良いと思う。

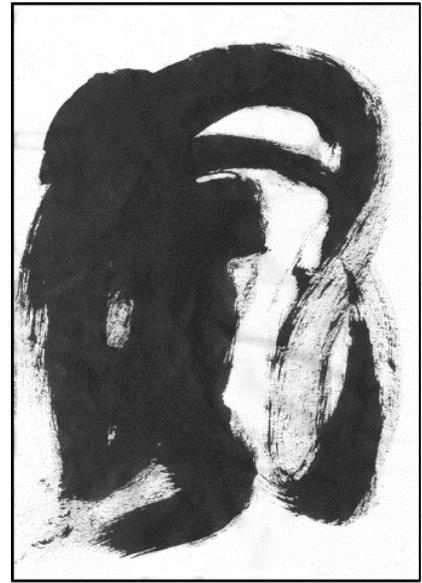
一定のスピードで書いている感じがするので、遅速の変化や一本の線でもリズムを付けて書いてみたほうが良いと思う。

③構成	②字形	①練習
右下の余白を無くす。	全体的にもと曲線的にする。	「さわやか」を出すために濁筆を入れる。

→

③性格	②筆致	①変化
す、ほりとした気持。	かやかんわりを書くとよにゆくり。書き中の部分を早く引いて速く。	濁筆を増やして、潤滑の変化をつける。

【生徒の作品①】



【生徒の作品②】



四 研究授業を終えて

今年度の研究授業では、「学習評価につながる指導及びワークシートの工夫と、主体的に学習に取り組む態度の評価」をテーマとし、本単元における指導と評価の計画において工夫したことは三点あります。

- ① 生徒が学んでいることの意義や価値を自覚しながら学習活動に主体的に取り組めるよう、ワークシートを効果的に機能させる指導を工夫するとともに、学習の過程を適切に評価できるようにすること。
- ② 指導に生かす評価と記録に残す評価の場面を精選し、評価の場面を適切に位置づけた授業を計画し、生徒が自らの学びを調整しながら粘り強く学習活動に取り組むことにより、生徒の学習改善及び主体的に学習に取り組む態度の向上につながるよう、評価の視点から効果的な指導を見直すこと。
- ③ 学習評価を教師の指導改善につなげること。

午後からの協議会、事後アンケートでは多くの先生方から貴重なご意見をいただきました。また、自身の反省として、「授業計画の中で時間配分が上手くいかなかった。」「ICT機器の活用については当日の授業の中で十分にいかすことができなかった。」等あります。今後は今回いただいたご意見や自身の反省点を見直し、生徒の実態応じながら工夫、改善していきたいと思えます。